

## 米国におけるオープンアクセス化に関する政策論議の展開 Open access publication in the United States

遠藤 悟<sup>1\*</sup>  
Satoru Endo<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 東京工業大学大学マネジメントセンター

<sup>1</sup>University Management Center, Tokyo Institute of Technology

米国におけるオープンアクセスの動向について、関連する政策を中心に報告する。米国等においては非政府の機関による PLoS や BioMed Central の形でオープンアクセスが進展したが、政府においても 2005 年に国立保健研究所 (NIH) の PubMed Central によりオープンアクセスによる論文のリポジトリが開始された。

オープンアクセスが進展するにつれ、多様なステークホルダーが著作権や財務運営等の問題を提示するようになったことから、米国議会の下院科学技術委員会においては大統領府と協力し、2009 年 6 月に大学、大学図書館、商業出版者、学術団体、著者負担モデルによるオープンアクセス設置者等により構成されるラウンドテーブルが設置され検討が行われた。その結果は、翌 2010 年 1 月に「Report and Recommendations from the Scholarly Publishing Roundtable」としてとりまとめられた。

他方、大統領府においては、2009 年、2011 年にデータ共有と学術出版へのパブリックアクセスに関するパブリックコメントの募集が行われ、一般市民を含む多様なステークホルダーの意見が多く寄せられた。

「Scholarly Publishing Roundtable」の提言内容やパブリックコメントを紹介することによりオープンアクセスに関する政策面の論点を紹介する。また、NIH 以外の政府機関のパブリックアクセスに関する最近の取り組みも報告する。

キーワード: オープンアクセス, 米国, PubMed Central, 大統領府科学技術政策室, Scholarly Publishing Roundtable  
Keywords: Open Access, U.S.A, PubMed Central, OSTP, Scholarly Publishing Roundtable